

小・中学校と地域の交流を紹介

みたねの学校

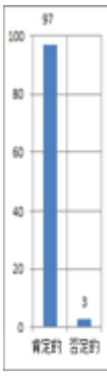
地域への子どもたちの思い

町内全校にアンケート実施

今年度も町内の各小中学校では学校支援事業として様々な地域と関わる行事を行ってきました。年度末を機にこの事業に関する子どもたちの思いを把握するためアンケートを実施しました。その結果をお知らせします。自己評価は肯定的(思う)か否定的(思わない)かで答えをもらいました。

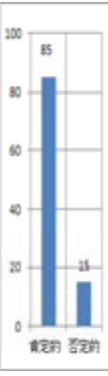
※対象は小6と中3、数値は%

Q1 地域の方と関わる行事は楽しかったですか。



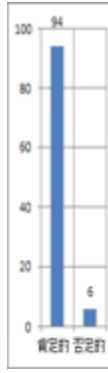
ほとんどの子どもが地域の方と関わる行事に楽しさを感じていました。

Q2 行事では地域の方と交流することができましたか。



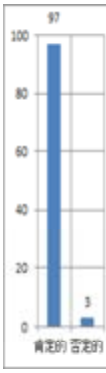
今年度は昨年度より肯定的回答が少ない結果でした。新型コロナウイルスの影響と思われる。

Q3 行事に参加した地域の方の思いや願いが伝わりましたか。



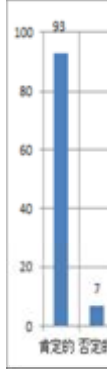
交流を通して、行事に参加した地域の方の思いや願いを子どもなりに感じ取っていました。

Q4 今後とも地域の方と交流したいですか。



地域の方と交流する活動が有意義に行われていたことが伝わってきました。

Q5 将来、地域のために力になりたいと思いませんか。



活動をを通して、地域への思いが高まる成果がありました。

令2 第11号
—発行者—
三種町教育委員会
教育活動推進員
渡邊 清彦

Q6 (一部抜粋)
地域の方と交流する行事に参加した感想

・今まで知らなかったことを分かって嬉しかった。地域のためになることができ良かった。達成感があった。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため地域の方と関わる活動ができませんでした。

Q7 (一部抜粋)
地域の方と関わる行事について今後に望むこと

・地域の方の元気な姿を見たり触れ合ったりできるので今後自分たちの代だけでなく末長く伝統行事は続けてほしい。コロナが収まったら積極的に地域活動に参加したい。

能代凧作りに挑戦

浜口小学校

この度、浜口小3年生が能代凧作りに挑戦しました。20年前から毎年指導している清水恒吉さん(浜田)が今年も協力しました。下絵作りから骨付けまで延べ3日間の作業

1日目は下絵描きの作業です。女の子のぼらぼう凧の中から自分で作りたい凧を決め見本をもとに和紙に鉛筆で下絵を



わくわく交流会

湖北小学校

描いていきました。その後、線ぞつていきました。その後の作業です。「もつと目立つように水を塗って」「ぼかしの部分に濃い色を塗って」「ぼかしの部分に水を塗って」「ぼかしの部分に濃い色を塗って」など講師の助言を聞きながら順序よくいねいに色を塗っていました。

3日目は骨付け作業です。講師が準備した竹製の骨組みに自分の凧をのりで慎重に張り付けました。作業後は講師の用意した凧を使って、体育館を走り回り高く飛ばす練習をしました。大きな歓声を上げていました。小塚愛斗さんは「ぼかしを使った色塗りも楽しかったです。上手にみえた作品もたくさん出来て良かったです。」と話しました。



この度、湖北小1年生が来年度入学する鶴川保育園児と八竜幼稚園と交流しました。

はじめは勉強コーナーです。1年生のランドセルを実際に背負ってみると「大きい」「重い」との声が聞かれました。次にブロックで数を数えたり紙鉄砲を作ったり遊んだりしました。学校探検コーナーでは1年生が手を引いて各教室や特別教室を案内しました。プレゼントコーナーで手作りのペンダントとアサガオの種が贈られると大喜びでした。終わりの会で1年生を代表して日諸光希さんが「4月になったら元気に学校へ来てください。お待ちしております。」と受け取って見送ります。「今日を受けてくださいます。入学したらよろしくお願います。」と挨拶しました。

1年生の成田紗子さんは「いろいろな活動が楽しかったです。新しい年に遊ばせてもらって嬉しかったです。話を話して



編集後記

地域の方と関わる行事アンケートを集計して肯定的評価の割合が多く安心しました。ただ新型コロナウイルスの影響で行事が中止となり残念だったとの感想がとて多かったです。

今の状況が改善して例年通りの交流ができることを願っています。

